

「全球化」を目指す習近平の夢と中国の希求

G&C(グローバル&チャイナ)ビジネスコンサルタント

代表 平沢健一

就任して2年が過ぎた習近平国家主席は、党・政府・軍事の8つの地位を独占、反腐敗闘争と世界を俯瞰した外交政策を進め国民が熱狂している。鄧小平を超えたという評価も出始めてきた。ただ、格差や環境汚染と言論封鎖そして異常なまでのナショナリズムの高揚など問題は山積しており、怒りと絶望に陥る中国人も確実に増加してきた。周辺国や多くの国でも「中国脅威論」が確実に進んでいる。

習近平の夢

こうした中、『習近平 国政運営を語る』(右写真)という500ページを超す書籍が北京外文出版社から昨年未発刊された。2012年11月の十八大(中国共産党第18回全国代表大会)から2014年6月までの間に、習近平総書記が様々な公の場で発表した演説、講演、談話など79編と45枚の写真が収められている。これまで毛沢東、鄧小平、江沢民、胡錦濤など歴代党主席の書物は退任後に発刊されてきたが、就任2年以内での発刊は極めて異例だ。筆者も読んでみたが立派な内容に感心するも、美辞麗句が並びすぎており、疑問を感じてしまう箇所も多い。

全18章の中で「中国の夢」が10項目掲げられており、その中でも第12章(P.303)のモスクワ国際関係学院での以下のスピーチに注目したい。

「中華民族の偉大な復興を実現することは、近代以来中国人民が抱いてきた最も偉大な夢であ

り、我々はこれを『中国の夢』と呼んでいる。その基本的内容は、国家の富強、民族の興隆、人民の幸福を実現することである。中華民族は昔から平和を愛する民族である。近代以来、中国人民は百年にもわたる外国の侵略と内乱の苦難を経てきたため、平和の大切さを肌で知っている。中国人民にとって最も必要なのは、平和な環境で国の建設を行い、人々の生活レベルを絶えず改善していくことである。中国は断固として平和的発展の道を歩み、開放的発展、協力的発展、ウインウインの発展を促進するよう努めていく。同時に、世界各国が共に平和的発展の道を歩むよう呼びかける。中国は終始防御を主とする国防政策に則り、軍備競争をせず、いかなる国にも軍事的脅威を与えない。中国の発展や強大化が世界にもたらすのは脅威ではなく、多くのチャンスである。我々が実現を目指す中国の夢は中国国民だけでなく、各国人民に幸せをもたらすものである」(下線は筆者)。

「平和」という文字が多く使われた大変高邁なスピーチであり、他国からも絶賛される内容であるが、これまでの中国の姿勢を検証するとにわかに信じられないことが多く、今後をウオッチすべきだと思料する。「日本人の民度はいかにして短時間で向上したか」などの記事を寄稿している中国の著名な時事評論家作家の楊恒均ヤンホンジュも「中国の夢」を批判している。

中国の野望

中国は鄧小平が言い出した「韜光養晦 有所作為」(能力を隠して力を蓄え、少しばかりのことを

